

末広小学校いじめ防止行動計画策定にむけて

宝塚市立末広小学校 校長

いじめ防止対策委員会

1. 策定にいたる経緯とその趣旨

昨年度、宝塚市立中学校における自死事案について、第三者委員会によりいじめ事案として再調査され、報告書の作成と公開がなされた。また各校においても周知され、宝塚市教育委員会主催として報告書に係る研修会を開催してきた。本校においても市教育委員会指導主事が教職員に研修会を実施した。研修会は、この事案が各校でも起こりうるものであり、いじめに対する私たち教職員の再認識を促すものであった。さらに宝塚市として、子どもたちの安全安心に学校生活を過ごすことができるような環境づくりを構築していく上で、次の4つの柱を設定した。

子どものSOSに気づく力を高める
チーム学校で取り組む

こどもの主体性を育てる
子どもに対する体罰及びハラスメントを根絶する

この4つの柱をもとに、想定する子どもの姿から、その具現化にむけた取り組みを示した。この内容については小学校および中学校の校長会のプロジェクトチームと市教育委員会とで協議・作成してきたものである。これをもとに、各校の子どもや家庭・地域の実態を鑑みた各校に則した「いじめ防止行動計画」を策定し、いじめ防止対策基本方針に基づいて計画・実践・振り返りをしながら更新していく。

2. 子ども・地域・家庭の実態からみた課題とその取り組み

強み	弱み
<子どもの様子> - 素直で優しい - 学校ルールや学習規律が身についている - 与えられたことはしっかりできる <地域家庭の様子> - 比較的家庭環境に恵まれている - 親から受ける一身の愛情	<子どもの様子> - 指示待ちが多く主体性に乏しい - 集団になった際、楽な方に流れやすい - 体幹の弱さによる姿勢の悪さ - 人との関係をうまく築けない、子ども同士の関係の希薄さ - いじめに対して傍観的な立場をとる子ども - 学校生活への意欲不振 - 不登校傾向の子どもの増加
<子どもの様子> - 素直 - 基本的生活習慣がほぼ確立している <地域家庭の様子> - 比較的家庭環境に恵まれている	<子どもの姿> - 多様なストレス - 人間関係を築けない - 自分との違いを認められず他者を排除する言動 - 差別する側にいて安心を得ようとする子どもも少なくない - 差別に対する怒りの弱さ <地域家庭の様子> - 対象地域がないことによる保護者の人権意識、人権感覚の乏しさ - 私学受験傾向等子どもに時間的ゆとりのない生活を強いる傾向がある

◇個々の能力の高さ
◇教師への指導・支援への従順さ
◇家庭・地域からの協力

「強み」を活かす取り組み
「弱み」に着目し強化

●人間関係の構築
●他者意識の高まり
●自尊感情の高まり

<末広小学校いじめ防止行動計画の今後>

○完成型ではなく更新していく計画書を策定(5月) ○「重点目標」の設定と見える化(HP掲載)

3. 本校の重点目標

◇末広小学校の重点目標

- 人間関係の構築
- 他者意識の高まり
- 自尊感情の高まり



- 主体的に学校生活に参画させるとともに、自信を持って自分の思いを発信できる学校
- 友だちの立場を尊重し、大切にしようとする子ども
- 同僚性を発揮し子どものサインを全員で見逃さない教職員集団

○ 主体的に学校生活に参画させ自信を持って発信できる学校を作ります

本校の子どもたちは一人ひとり大きな力を持っています。その力を発揮伸張する上で、安心して発信できる環境づくりが不可欠です。そこで日々の授業はもちろん児童会活動や特別活動を通じて、子どもたちが自信をもって自分の言葉で語ることでできる教育活動づくりをしていきます。

○ 他者の立場を尊重し、勇気づけられる、励まし合える、支え合える子どもを育てます

自信を持って自分の思いや願いを発信していくためには、安心できる周りの環境が必要です。他者意識を持った言動によって、互いに支えられ感を実感できるよう、日々の授業づくりでの能動的な聴き方や話し方を指導・支援していきます。また学校生活において子どもたち同士が「話していいんだ」「聞いてくれている」と実感できるようにしていきます。

○ 同僚性を発揮し、子どものサインを全員で見逃さない教職員集団を作ります

子どもの内面は、表情や言動に表れます。そのサインを見逃さないためにも、教職員の人権感覚を高めていくことが不可欠です。同僚性を持って互いに高め合い、チーム学校として風通しのよい教職員間であることが、子どもを守ることに繋がります。研修も積極的に実施し人権感覚を高めていきます。

4. 行動計画(別紙参照)